

2021年3月5日

各 位

会 社 名	タキロンシーアイ株式会社
代表者名	代表取締役社長 齋藤 一也 (コード：4215、東証第一部)
問合せ先	経営企画部長 高橋 伸治 (TEL. 03-6711-3708)

グループ企業理念、長期ビジョンおよび中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、グループ企業理念、長期ビジョンおよび2022年3月期～2024年3月期までの3ヵ年を対象とする中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以 上

変革への決意 CX2023

Commit to Transformation2023
中期経営計画 2021年度～2023年度

2021年3月



タキロンシーアイ株式会社

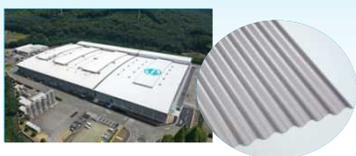
【1-1】前中期経営計画の振り返り（定性レビュー）

- 2017年統合時に計画した企業価値向上・事業拡大に繋がる施策を着実に実行
- 「新規事業創出・新製品開発」については継続して取り組むことが必要

生産体制再構築

1 採光建材の生産集約

- PC事業を揖保川へ集約



2 関東生産拠点の再構築

- ハウエル管増産拠点を遊休地に移転



3 九州工場の移管

- 滋賀、栃木工場への生産集約



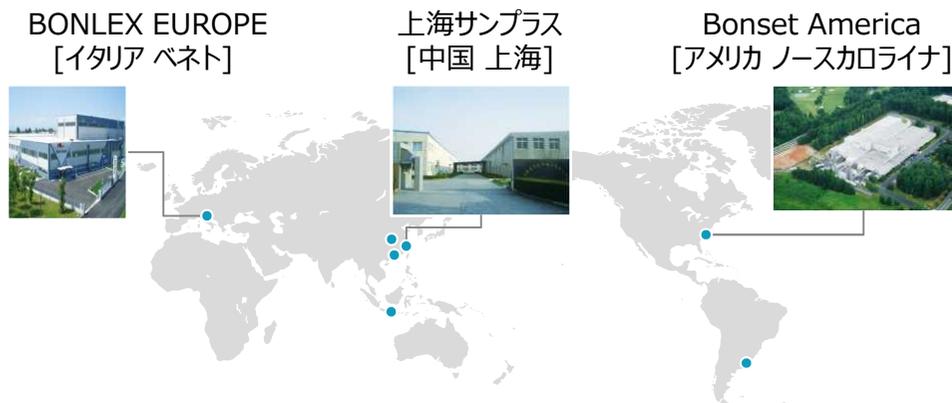
4 研究拠点統合

- 神戸→滋賀移転統合



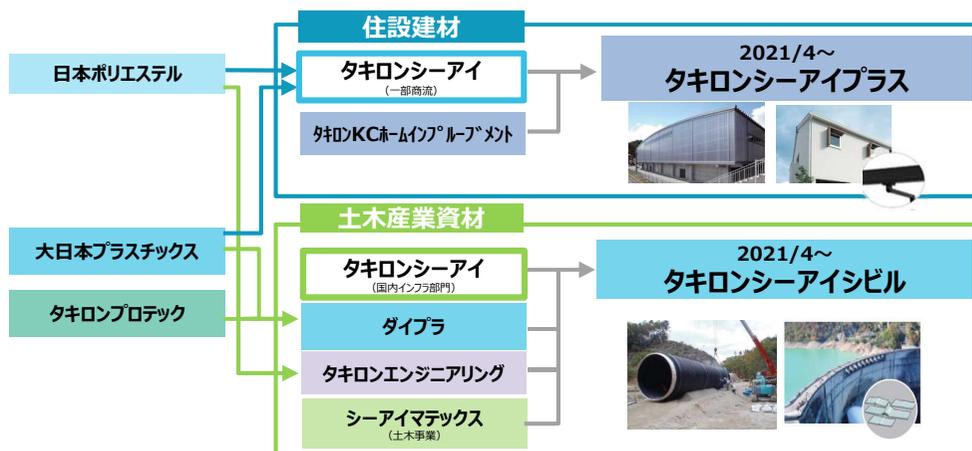
海外設備投資

- 海外工場設備投資による生産能力増強、海外生産の加速



販売体制最適化

- 住設建材事業・土木産業資材事業の経営資源の全体最適化
タキロンシーアイプラス、タキロンシーアイシビルにそれぞれ集約



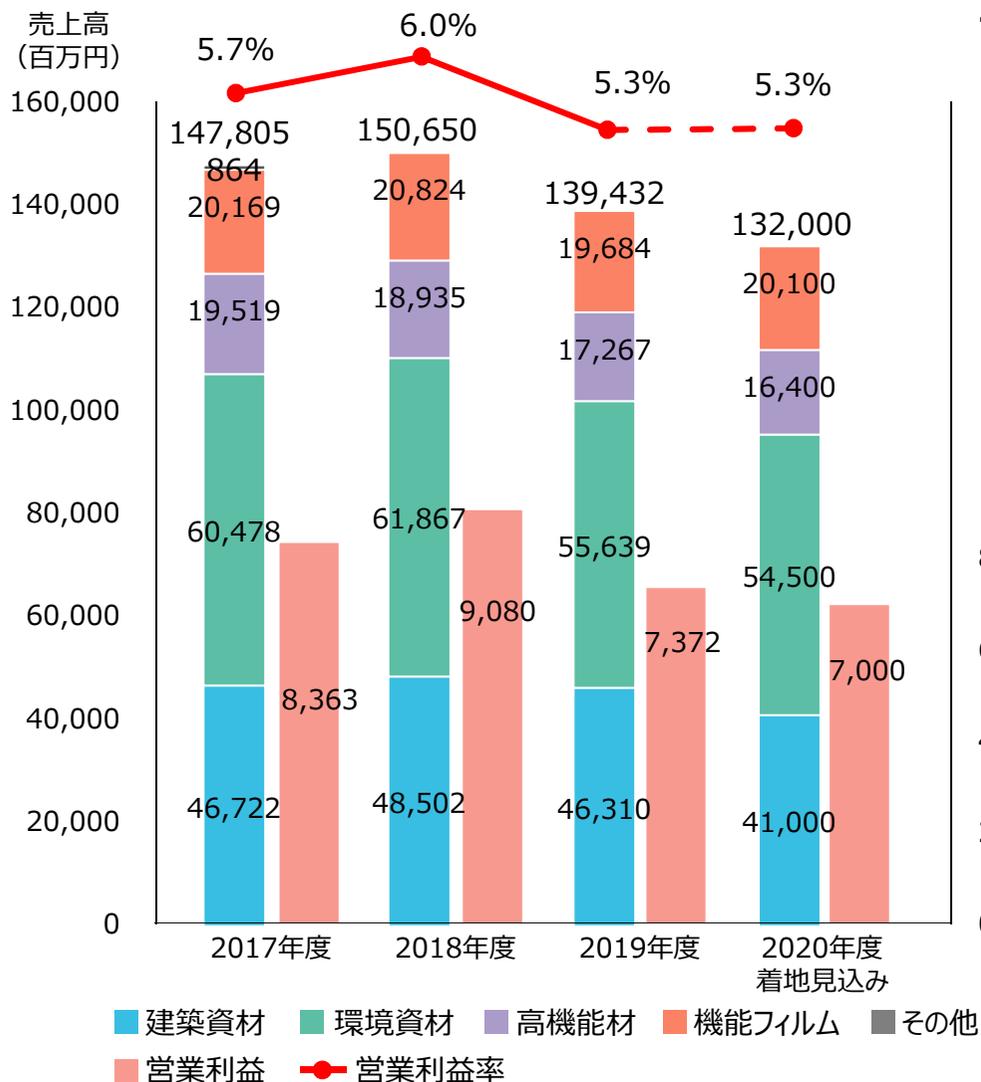
国内設備投資

- **建築資材**
安富工場
高意匠な床材製品の生産性向上
- **環境資材**
滋賀工場
農PO高付加価値製品の生産能力増大
- **高機能材**
タキロンテック
半導体関連需要動向への即応力強化

【1-2】前中期経営計画の振り返り（定量レビュー）

■ 定量目標はほぼすべての項目で目標未達の見通し、新型コロナウイルスの影響を踏まえても大いに反省すべき結果

連結業績推移



計画差異

	2020年度 当初計画	実績見込	当初計画比
売上高	1,800億円	1,320億円	△480億円
営業利益	120億円	70億円	△50億円
営業利益率	6.7%	5.3%	△1.4%
純利益	75億円	40億円	△35億円
ROA	4.5%	2.8%	△1.7pt
ROE	9.5%	4.8%	△4.7pt

【2-1】中長期的な成長に向けて

前中計の未達成原因

必達意識の欠如

目標・計画管理の甘さ

戦略投資枠活用策の未整備

中長期的視点の戦略

ESG経営の推進

マテリアリティ対応

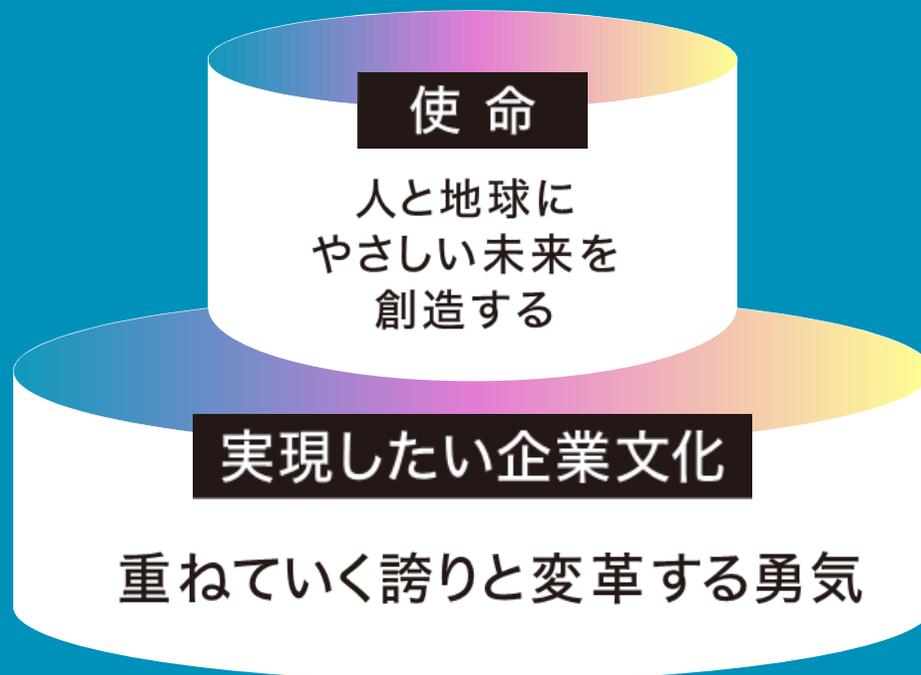
グループの全役員・全社員のベクトルを一致させる

企業理念体系の再整理

長期ビジョンの設定（10年後のありたい姿）

【2-2】グループ企業理念

グループ企業理念



【企業メッセージ】

今日を支える、明日を変える。

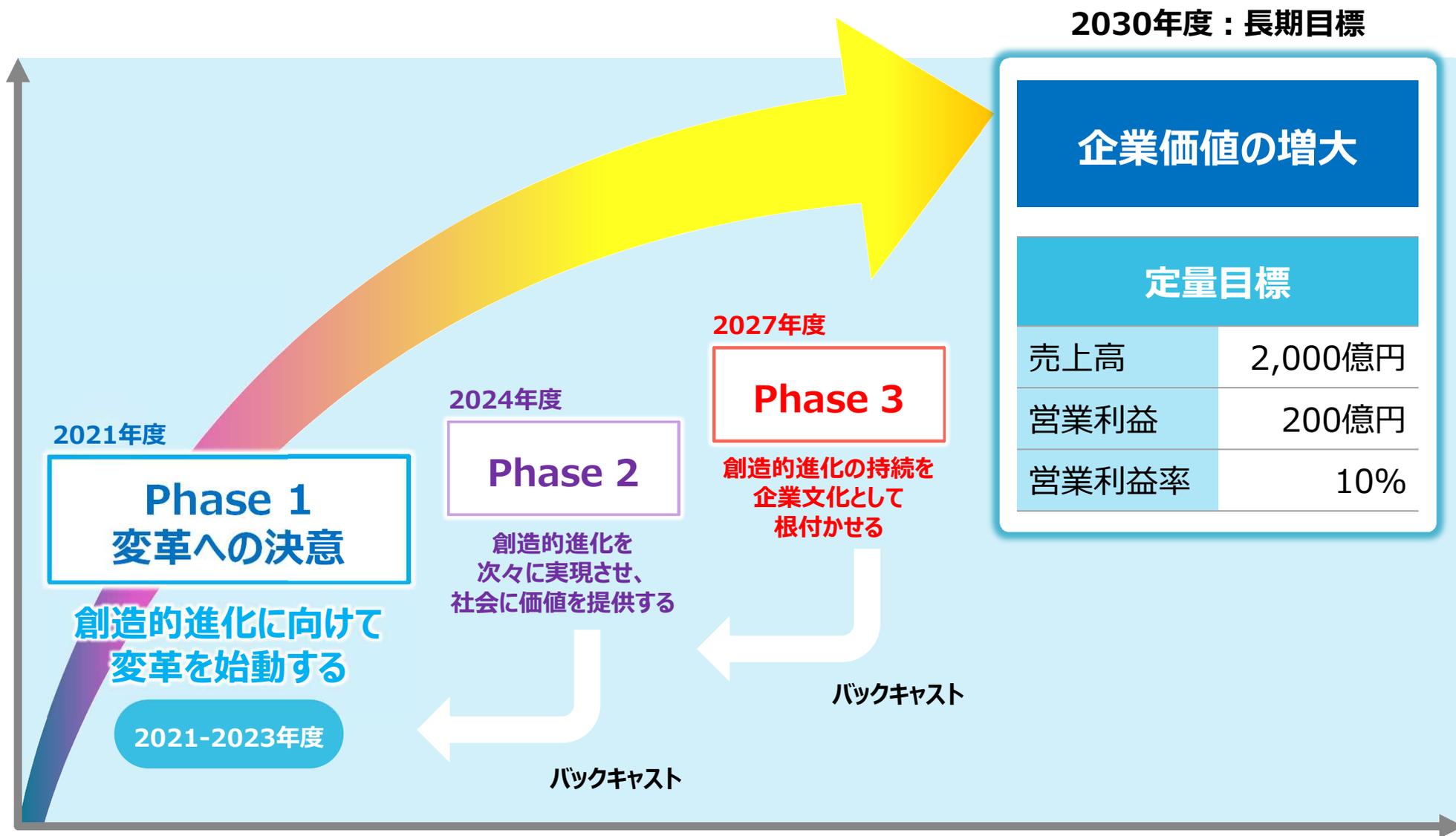
【2-3】長期ビジョン

タキロンシーアイ 2030 ビジョン

創造的進化で地球の未来に
確かな「安心」と「心地よさ」を
とどける企業グループ

【2-4】 長期目標の設定とバックキャスト

- タキロンシーアイ2030ビジョンにおける長期目標を設定
- バックキャストによりPhase 1の中期経営計画を策定

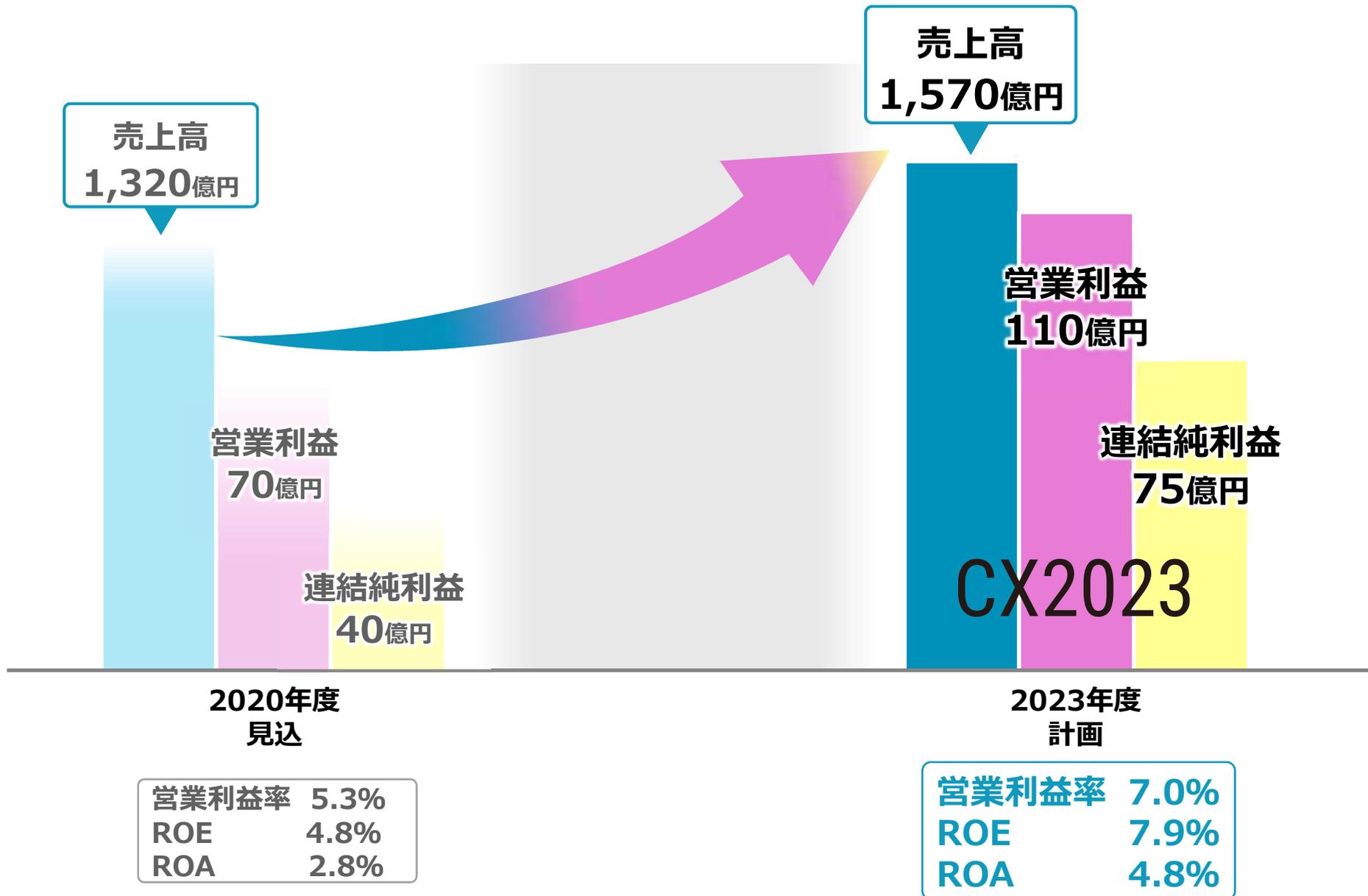


【3-1】中期経営計画



全グループの一体感を醸成し、企業価値向上を目指した「変革とチャレンジ」

【3-2】 CX2023 定量目標



【3-3】 CX2023 6つの重点実施項目

重点実施項目

1

社会課題の解決

社会の持続可能性（サステナビリティ）を意識し、SDGsを踏まえた事業活動とマテリアリティの着実な実行により具体的な社会課題の解決に寄与する。



2

新事業・新製品・ 新技術の獲得

未来の変化・需要を見据えて、次世代を担う新事業・新製品・新技術の創出にチャレンジし、実現する。



3

ボーダレスの 加速

販売・生産拠点のグローバル進出、新しい価値基準でのマーケティング、ダイバーシティ（性別、人種、国籍、宗教、年齢）の組織・企業文化での実現など、ボーダレスな視点で企業価値向上と事業成長を追求する。



4

デジタルの実装

全ての業務プロセスにおいて最先端技術の活用を検討し、作業の効率化、省力化、コストダウンなどの成果を追求。販売面において新たな付加価値を生むようなデジタル活用を推進し、新たなビジネスモデルの創出を目指す。



5

グループ経営の 再整備

主管事業部による連結事業戦略の立案、グループ内での共有を図り、複合的な事業協働や投資効率の最大化を果たすことで、連結事業体としての価値創造を実現する。



6

経営基盤の進化

ワークライフバランスによる制度設計を進化させ、全社員による「充実人生経営宣言」を実践する。無事故、ハラスメント撲滅など、職場環境や日常のコミュニケーションを再度見直し、安全・安心に働ける職場への進化も追求する。

【3-4】 CX2023 2つの成長原資/2つの支援体制の新設

重点実施項目



2つの成長原資

1 330億円の投資枠を設定

デジタル30億円

- 働き方改革
- 先端デジタル技術活用
= 業務効率化(RPA導入)
- ペーパーレス化
- 生産プロセスIoT活用

環境（社会課題解決） 新規事業、グローバル 300億円

- 3R（リデュース、リユース、リサイクル）
- 再生エネルギー
- 環境配慮型製品
- 脱炭素関連
- M&A
- 新技術獲得
- 海外投資

2 研究開発費総額を売上高比率2%以上に設定

開発スピードの短縮



外部からの技術導入



技術パートナーとの提携



2つの支援体制の新設

1 デジタル戦略専門組織

未来を見据えた既存の価値観にとらわれないデジタル戦略の早期立案と組織設計（社長直轄）



2 中計・マテリアリティ管理委員会

中期経営計画/マテリアリティ定量目標・各KPIの達成のため、各種施策の企画・実行、計画進捗管理を実施



IRに関するお問い合わせ先

タキロンシーアイ株式会社
経営企画部
コーポレートコミュニケーショングループ

.....

電話：03-6711-3718
e-mail：k-takata@takiron-ci.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。